

# 兵庫探訪

## ⑤ 三草藩武家屋敷 旧尾崎家住宅(社町指定有形文化財)

所在地 加東郡社町上三草1157

写真 広報委員 澤 良雄  
文 広報委員 高橋 正子



南側前面道路より外観



三草藩陣屋付近図  
明治製糖当時



写真1 正面玄関

兵庫探訪では、昨秋より農村歌舞伎舞台についてやや集中的に取り扱ってきたが、今号から全3回にわたって社町周辺地域のシリーズを行うこととなった。当日取材した順に従って第1号となるのがこの三草藩武家屋敷(旧尾崎家住宅)である。

### 【社町とその周辺】

現地を訪れてみると、ゆったりと流れる三草川や広々とした田畑の中に、瓦をふんだんに用いた堂々たる伝統的民家郡が、落ち着いた街並みをつくっている姿がまず印象的であった。この三草藩武家屋敷は文化財ということで歴史的な外観を保っているが周囲とのミスマッチは感じられず、周辺環境との調和によって文化財価値が一段と高められている様子であった。いわゆる乱開発がこの地においてこれ以上進まないようにと、願わずにいられない。

### 【歴史背景】

18世紀中期、丹羽薫氏譜代大名がおこした三草藩の拠点となったのがこの三草の地であった。約3ha弱の区域に、本陣を中心として数々の屋敷、長屋をめぐらせた陣屋が建設された。現在では本陣は無く、本陣跡にはRC造のビル(やしろ国際学習塾)、稲荷社と数軒の武家屋敷を残すのみで、陣屋跡は閑静な住宅地となっている。また尾崎家とは、幕末時に藩の大目付として活躍した30石取りの藩士尾崎弥一

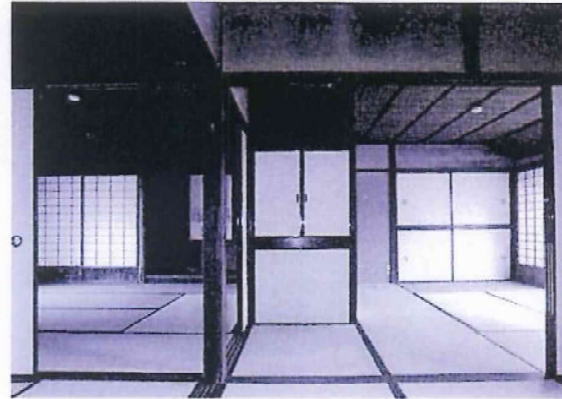


写真2 室内部(中央が仏間)



写真3 裏庭(中央が井戸端)

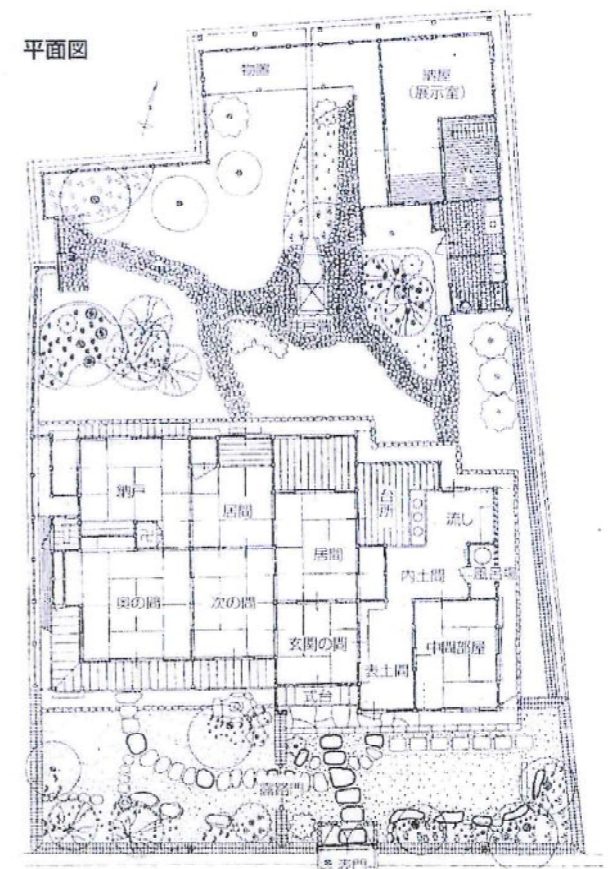
### 【建物について】

建物の形式は、平屋建て、寄せ棟造、屋根浅瓦葺で、南面の正面玄関の式台(写真1)やその脇の格子窓などが屋敷の風格をあらわしている。式台を上がると玄関の間、その上手に4室が田の字型に配され、表側(南面)2室が奥の間・次の間、裏側(北面)2室が納戸・居間になっている。田の字のほぼ中央に仏間が据えられているのが特徴(写真2)で、ふすまを取り去れば大勢でこの仏壇を取り囲むことが可能となる。式台下手(東側)の土間は、炊事場の機能も備え表から裏庭へ通り抜けができる使い勝手の良いプランである。

一方、開口の大きい部屋内から庭の眺めが実にうまく配慮されており、表・裏それぞれにさりげない趣を感じられるしつらいであった。特に裏庭に於いては、中央に井戸をおき数棟の納屋や母屋台所の勝手口がその周囲をとりまくという井戸水利用の時代ならではの配置である。なおかつ“捨”になるこの井戸端では、水汲みを行う人の姿もきつと美しく見えたに違いないと思わせる。(写真3)

建物規模が比較的小さく現代の一般的な住宅プラン(4LDK)に近いものであるため、当時の住まい方が想像しやすく、民家初心者にもぜひ見学をお勧めしたい。

### 平面図



### ※見学案内

交通機関:JR加古川線社町駅よりタクシー約15分  
公開日時:土・日・祝日の午前10時~午後4時  
問い合わせ:社町中央公民館(TEL0795-42-0173)